

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 授業形態、教材の多様化に伴う既存教室の機器などの改善を図る。	→教室へのプロジェクター設置割合。教員の機器使用要求への対応率。	B	B	B	A	A
2. 大学院生や研究員をTA (Teaching Assistant: ティーチングアシスタント)、そして学部3・4年生をLA (Learning Assistant: ラーニングアシスタント)とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	C	C	B	B	B
3. 会議など事務的負担を軽減することによって研究時間を確保する。	→学部で設置する委員会数。メールによる持ち回り委員会の開催数。	D	D	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか C号館、経済学部棟におけるプロジェクターなどの視聴覚機器の配備は2011年度までにほぼ終了し、2012年夏に、これまで稼働率の悪かった経済学部棟2階の4教室について、プロジェクターの設置、可動式の椅子・机の配備、PC対応の電源の容量を増やすことによって改善した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 経済学部棟の2階の4教室の1週間の稼働率が2013年度に75%にアップした。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か C号館を授業形態の需要に合わせて小教室を合体させて収容力をアップさせる。また視聴覚教材システム(VTR、DVDなど)の増加に伴い可動式のスピーカーなどの必要備品の購入。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度春学期に実施した経済と経済学の基礎Aの補習授業であるが、秋学期の経済と経済学の基礎Bにおいても実施し、大学院生によるチューター3名と学部上級生をLAとして11名採用した。2013年度春学期よりこれらに加え基礎演習クラス(1年)でもLAを相談員として9名採用した。ただし、目標にある「LAを20名」という人数には至っていないので、それに努める必要がある。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 経済と経済学の基礎の補習授業が継続したものとなったこと、および基礎演習クラスのLAでは、指導教員の補助者として機能している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在LAとTAは各授業の期間(半期ないし1年間)継続して毎回の授業時間内に務めるのが原則であるが、必要な際のみピンポイントでの勤務や授業時間外での準備対応も可能なように体制を整えたい。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に委員会の数を減らすことによって、若干の改善がなされた。それを2012年度以降も踏襲している。また、教授会と研究科委員会を別日程で実施していたものを同日程開催とした。また2013年度より教授会での報告事項の一部をメールによる報告とすることにより会議時間の短縮を図った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 委員会数の減少により、大幅に研究時間が確保されたわけではないので、なお事務的負担の軽減の余地があると思われる。教授会・研究科委員会を同日程開催とすることで空いた時限を研修会・講演会に充てることができた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 空いた時間(第3, 4週水曜日)の有効利用として経済学セミナーや学部講演会の開催を継続させる。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経済学部】			単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	人	23	17	15	17	18	
		実験実習指導補佐・教務補佐	人	3	3	3	3	3	
		授業補佐	人	0	0	0	18	15	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	10.5	16.0	13.6	15.4	13.8	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	12.1	10.5	10.4	10.3	11.4	
		講師	時間	20.0	—	10.1	8.0	—	
		助教	時間	8.2	9.3	—	—	—	